# 評価結果報告書

# 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>10</u>
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>1</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>5</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と 見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>7</u>
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1492300460	
法人名	社会福祉法人 小田原福祉会	
事業所名	潤生園よりあいどころ螢田	
訪問調査日	令和6年11月25日	
評価確定日	令和7年2月28日	
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION	

#### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

## 〇記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待さ | れる内容を記入しています。

## 〇用語の説明

家族等 =家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 =家族に限定しています。

運営者 =事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員=管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外の メンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

【					
事業所番号	1402200460	事業の開始年月日	令和5年11月1日		
新来 /   留 / 5 		指定年月日	指定年月日 令和5年11月2日		
法 人 名	社会福祉法人 小田原福祉会				
事 業 所 名	潤生園よりあいどころ	螢田			
所 在 地	( 250-0865 ) 神奈川県小田原市蓮正寺997-4				
サービス種別 □ 小規模多機能型居宅介護			登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名	
定 員 等 ☑ 認知症対応型共同生活介護		同生活介護	定員 計 エニット数	18名 2エット	
		評 価 結 果 市町村受理日	令和7年	3月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者が共同生活の中で、自分の役割を持ち、喜びや充実感、達成感のある活動が出るように支援します。得意な家事、趣味活動等に寄り添って支援しています。ご本人とご家族の絆が途切れないよう、感染症対策を行いながら面会はルールに沿って柔軟に対応しています。地域住民との交流、隣接する施設とも交流し地域行事の開催等で参加を目指すとともに子供たちが放課後や学校などが休みの時、学校等へいかれない時に安心して過ごせる場所になれるようにと考えています。段々と体力の低下が見られ飲食する事も難しい状況にあっても、ご家族とともに、医療とも連携し、環境を変えることなく、顔馴染みの職員やご入居者に囲まれ最期まで生活をして頂けるように、支援をしております。地域密着の事業所として2か月に一度、運営推進会議を行い、地域の方へ事業内容の報告を行っております。災害発生時には地域や施設同志で助け合える関係を構築出来るように努めます。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評 価 機 関 名	株式会社 R-CORPORATION		
所 在 地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル	9F	
訪問調査日	令和6年11月25日	28日	

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ●この事業所は社会福祉法人小田原福祉会の経営です。社会福祉法人小田原福祉会は、昭和53年に特別養護老人ホーム「潤生園」を開設し、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、ショートスティ、サービス付き高齢者住宅、グループホーム、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、配食サービス、多岐にわたる福祉事業を小田原市内で運営しています。潤生園よりあいどころ螢田は昨年11月に、法人2つ目のグループホームとして開設し、1階は11月に、2階は3月から入居を開始しています。「潤生園よりあいどころ螢田」は小田急線「蛍田駅」から徒歩5分程の、潤生園在宅介護総合センター「れんげの里」と同じ敷地内にあります。
- ●「眠りスキャン」を導入し、ベッドからの「転倒・転落のリスク低減」と居室の見える化による「職員の負担軽減」によって、「介護の生産性向上」と「介護の質向上」を図っています。眠りスキャンを導入したことで、ベッドでの動き出し、起き上り、端座位等の動作や、入眠状態も把握でき、夜間の状態変化をいち早く検知することが出来るようになる等、より安全性の高いサービスを提供できるよう努めています。
- ●地域密着型サービスとして、地域に根付いた事業所運営を目指すべく、管理者は、今年の夏に「カブトムシ&クワガタムシふれあい展」を法人と企画し、SNSや運営推進会議で情報を発信し、40名余の地域の方が参加する等、地域に認知される契機になりました。今後の展望として、敷地内の畑を保育、幼稚園児への開放や、公園を作り、子供達の寄合所として、子供と高齢者が交流できる施設にしたいと考えています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

	評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ι	理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
Π	安心と信頼に向けた関係づくりと支援	$15 \sim 22$	11
Ш	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	$23 \sim 35$	$12 \sim 16$
IV	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	$36 \sim 55$	$17 \sim 23$
V	アウトカム項目	$56 \sim 68$	

事業所名	潤生園よりあいどころ螢田
ユニット名	1 階

V	V アウトカム項目					
56		0	1, ほぼ全ての利用者の			
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		2, 利用者の2/3くらいの			
			3. 利用者の1/3くらいの			
			4. ほとんど掴んでいない			
57	利田老も聯告が、休から、たいも同ざむ相子が		1, 毎日ある			
	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。	0	2, 数日に1回程度ある			
	(参考項目:18,38)		3. たまにある			
			4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい	0	1, ほぼ全ての利用者が			
	利用有は、一人のとりのペースで春らしている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:38)		3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1, ほぼ全ての利用者が			
		0	2, 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい		1, ほぼ全ての利用者が			
	る。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:49)		3. 利用者の1/3くらいが			
		0	4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な	0	1, ほぼ全ての利用者が			
	利用有は、健康自生や医療面、女主面で不及なく過ごせている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:30,31)		3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	0	1, ほぼ全ての利用者が			
	和用有は、その時々の状況で安全に応じた未執 な支援により、安心して暮らせている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:28)		3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			

63		$\cap$	1、ほぼ全ての家族と
	職員は、家族が困っていること、不安なこと、		2, 家族の2/3くらいと
	求めていることをよく聴いており、信頼関係がしてきている。 (参考項目:9,10,19)		3. 家族の1/3くらいと
			, , ,
C 4			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域		1, ほぼ毎日のように
	の人々が訪ねて来ている。	0	2,数日に1回程度ある
	(参考項目:9,10,19)		3. たまに
			4. ほとんどない
65			1, 大いに増えている
	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		2, 少しずつ増えている
		0	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	議員は、活き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	0	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67		0	1, ほぼ全ての利用者が
	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う。		2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68		0	1, ほぼ全ての家族等が
	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う。		2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I	理》	念に基づく運営			
1		<ul><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</li></ul>	法人の理念「人は人として存在するだけで尊い。真の福祉は人の命の尊さを知り、個人の人格を心から敬愛するところから始まる」を毎日唱和し実践につながるよう意識している。科学的介護に基づく自立支援介護を実践し入居者個々の自己実現目標を共有し目標達成を目指しています。	法人の理念「人は人として存在するだけで尊い。真の福祉は人のいのちの尊さを知り、個人の人格を心から敬愛するところから始まる」に基づき、事業所では毎日、食後の、昼のミーティングでは情報の共有を行うとともに、この理念唱和し、実践につながるよう努めています。新入職員は新人研修で法人の理念についての話を聞いています。毎月、れんげの里合同ののワーカー会議を開き、情報の共有化に努めています。	今後の継続
2		<ul><li>○事業所と地域とのつきあい</li><li>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</li></ul>	開所時から地域自治会や民生委員、地域包括支援センターなどと情報交換はしている。二ヶ月に1回の運営推進会議が主な交流になっている。その会議も地域の方々も忙しく出席率は低い。8月に「カブトムシ&クワガタムシふれあい展」をおこなった。地域の子供、親子連れで盛況でした。	開所時から地域自治会や民生委員、地域包括支援センターなどと情報交換を行っています。2ヶ月に1回の運営推進会議が主な交流機会となっています。今年の夏に「カブトムシ&クワガタムシふれあい展」を法人と企画し、SNSや運営推進会議で情報を発信した結果、40名余の地域の方が参加が得られ、今後も地域の方との交流出来る行事を企画したいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	防災訓練、炊き出しなど地域にお知らせし実施している。運営推進会議では、路地が暗いので、防犯のために、施設の街頭をつけておいてほしいなど要望があり対応した。公園が少ないということで、子供たちや誰もが安心して立ち寄れる場所になってい		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隣接の小規模多機能型居宅介護 「みんなの家ほたるだ」と共同開催している。 それぞれの地域交流ルームにて参加。イベント の企画や災害時、特に水害発生時には避難場所 になるように計画中です。民生委員さんからの 情報や転倒事故や介護保険の状況など情報共有 している。	運営推進会議は隣接の小規模多機能型居宅介護「みんなの家ほたるだ」と年6回共同開催しています。それぞれの地域交流ルームで交代で行い、自治会長・民生委員・地域支援センター・家族代表・入居者代表、エリアマネジャーなどの参加を得ています。事業所の現状や活動、防災、事故、医療との連携等について報告を行っています。参加者からの意見等は、事業所のサービス向上に活かしています。	今後の継続
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	開所に向け、また開所時に市の担当者と確認等関わって頂いた。また、これまでに改正等により、基本料金、新しい加算や減算、介護職員等処遇改善加算の割合変更などあった。市主催の「集団講習会」「介護サービス事業所連絡会」へ参加した。「運営指導」で指導も受けた。	集団指導講習会に出席し、今後の介護政策等の動向 把握に努めています。事業所の開所時や不明点等が 生じた際には市の担当課に連絡し、助言や相談に のっていただいています。また、「介護サービス事 業者連絡会」へも出席し情報や意見交換をしていま す。社協等も行事の際に備品等を借りる等、協力関 係も構築できています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で理解を深め、入居者に寄り添い、行動をともにするなど行い、声かけについてもスピーチロックになっていないかなど、職員間で情報共有。玄関の施錠に関しては主に防犯の為、職員が各階1名の対応の夜間18時30分から朝7時00分までは施錠している。緊急やむを得ない状況の発生はない。	3ヶ月毎開催の身体拘束委員会で身体拘束に関しての禁止となる具体的な行為や、その弊害につい話し合っています。研修等で理解を深め、入居者に寄り添い、行動をともにするなど行い、声かけについてもスピーチロックになっていないかなど、職員間で情報共有に努めています。法定研修として、本部より随時動画の配信があり、個人別に年2回以上受講しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	虐待防止委員1名が3ヶ月毎の虐待防止委員会に 出席し情報共有、検討など行い、それを事業所 内で共有している。また、県からの高齢者虐待 防止の自己点検シートの実施を行い、防止に努 めている。	虐待防止委員1名が3ヶ月毎の虐待防止委員会に出席し情報共有、検討など行い、それを事業所内で共有しています。また、県指定の高齢者虐待防止の自己点検シートを実施し、防止に努めています。ヒヤリハットや、事故報告書などの考えられるケアの安全性については、毎日のミーティングや、毎月のユニット会議等で検討し、虐待のないケアに努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必 要性を関係者と話し合い、それらを活用できる よう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について 学ぶ機会を事業所内ではまだ作れていない。成 年後見制度の利用に関しては事業所内で2名ご 家族が手続きを進められている。連携している 医師による診断書の作成に協力頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書を十分に説明し、その後契約書の内容説明行い契約している。改定により料金、内容の変更の際には改めて重要事項説明書を更新し説明行い、不安や疑問について解消を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者に自己実現目標を聞き取る事を行っている。聞き取り困難な場合もあるが、その内容を運営に生かせるように情報共有する。また家族等のご要望やご意見については、面会時、プラン更新時、電話連絡時に聞き取りし記録にし共有、検討、実施している。年度内に家族会企画する。	よりあいどころ螢田では、利用者に自己実現目標を聞き取り、ほのぼのソフトのケース記録として載せています。聞き取り困難な場合には、家族との面会時、プラン更新時に聞き取り、ケース記録に落とし込む等して、職員に共有して、運営に生かせるように取り組んでいます。今後は、家族間の交流も兼ねた「家族会」を検討しています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価		
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のMTGも含め特に月に二回のワーカー会議において、利用者の情報共有とともに、法人や事業所の運営状況(収支含む)も管理者から職員へ伝達報告し意見を聴取している。シフトの業務内容やレクリェーション、書式の変更、委員会の内容など実施している。	毎日のミーティング(書記は遅番が担当)も含め、 月2回の合同ワーカー会議で、利用者の情報を共有す るととともに、法人や事業所の運営状況(収支含む) も管理者から職員へ伝達報告し、意見を聴取してい ます。シフトの業務内容やレクリエーション、書式 の変更、委員会の内容など実施しています。法人と しての業務改善委員会も実施しています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりが いなど、各自が向上心を持って働けるよう職場 環境・条件の整備に努めている	月に3回の上司との1on1フィードバックミーティングが位置付けられており、個別の就労希望も確認している。法人内で様々なサービスや勤務形態が見て希望出来る。有給休暇や残業手当など人事部と各管理者で管理ソフト使用し管理確認している。正職員や昇格など年二回機会を設けている。	月に3回、上司との1on1フィードバックミーティングが位置付けられており、個別の就労希望も確認しています。福利厚生、介護休暇、育児休暇等についても話し合っています。リフレクションシートの自己評価、上司評価、管理者評価を実施し、科学的介護を核として内容の組み直しも検討しています。互助会のあいらく会として忘年会等も実施しています。	今後の継続	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は事業所で行うほか、人材育成センターにて年間計画に沿って入社時研修、年次研修などが実施されている。そのほかにABILIClipでeラーニングで学べる。感染症対策研修は看護師から研修し事業所内全職員へ伝達研修行う。ほかに部門内OJT実施。	法人では、内部研修は事業所で行う他、人材育成センターにて年間計画に沿った職員育成研修として、入社時研修・6ヶ月研修・1年・2年・3年・4年時研修等があり、階層別の役職者研修や、法定研修なども行われています。外部研修は今年度より積極的に参加出来るようになり、研修時の費用や時間の支援制度もあります。	今後の継続	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取組みをしている	市が主催の多職種対象の研修や医師会主催の勉強会などへ参加交流する。また市内の小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護の事業所で連絡会があり、RUN件や注文を間違えるカフェ、事業所見学会、研修など行い、交流しながらお互いに活動し関わる。			
П	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、本人の安心を確保するための関係づくり に努めている	既往歴や生活歴を聞き取り、話をすることで関係構築はかる。本人の趣味趣向を聞き取り活動 出来るきっかけを作る。困っている事、不安な 事が払拭出来るよう職員間で共有し対応する。 課題分析表、ケア記録等に記す。新しい環境に 慣れ安心出来る場所になるように努める。			

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況を共有し、家族の思い、家族それ ぞれの健康状態含めて、不安や要望を聞き取り をする。方針やケア内容などサービス担当者会 議を行い説明を丁寧に行い、意向など確認し不 安解消おこなう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	認知症滞欧型共同生活介護の利用が、適切か否か、それまで利用してきたサービスがあれば、そこからも情報収集する。また選択しとしてのサービスの説明も出来る限り行う。必要と思われるサービスの提案行う。		
18		<ul><li>○本人と共に過ごし支え合う関係</li><li>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</li></ul>	入居者本人の行えることを見極め、必要なところは支援し、出来るところは見守り 役割をもって張りのある生活を出来るように努める。職員が行ってしまうと業務になるがケアとして関わり、どうしたら出来るかを考えて支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	家族に可能な部分で、役割を担って頂く。消耗品の補充や必要な場合の受診、家族との外出、外食。日々の暮らしを発生した事故等含めて状況報告行い状態を知って頂く。趣味を継続するための支援。帰宅願望時の面会や電話対応。支援内容の要望や確認をして頂く		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内や廊下の専用飾り棚に、思い出の品を 飾ったり、アルバムを持参されていれば、それ を見ながら思い出話が出来るようにする。感染 症に配慮して頂き、友人や近隣の方の面会など 楽しむ。	家族、友人、知人、同僚等の面会もあり、コロナウィルスが5類に移行した現在も、手指消毒等を前提に対応しています。利用者によっては、携帯を持ち込んでる方おり、家族と連絡を取り合っている方もいます。理美容については、訪問理美容を利用されている為、行きつけの理美容室に行かれている方はいません。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	特定の利用者同士が理由もなくぶつかることも あった。些細なことが納得いかない利用者も あったが、これまでの支援経過でお互いを思い あったり、不安の解消につながる言葉がけをし たりコミュニティが出来上がってきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	これまでに利用終了になったケースは3件。入院の末戻らずにご逝去されたケースやお看取りのケース2件あった。どちらも家族が居室で見守りながら最期を看取ることが出来た。写真や動画の提供をし生前の様子を家族と共有する時間をつくることができた。		
Ш	そ(	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	F		
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している。	ご自宅の様子や本人、家族の意向をお話や行動などから把握している。起床時間、就寝時間についても本人のペースで出来ている。生活の中の様々なタイミングも大きく生活のリズムが崩れないよう見守りながら過ごされている。	入居前面談で、本人、家、介護支援専門員等から、過去の生活歴や既往歴、趣味嗜好品、暮らし方の希望等の聴き取りを行っています。これまでの生活サイクルを継続できるよう、本人のペースを尊重した支援を心がけています。日々の会話で本人が発した言葉や家族の意向を自己実現目標に設定することで、利用者、家族の思いや意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	入居前の自宅への訪問や、入居前に利用していたサービス、病院などから得た情報を記録する。情報が乏しいケースもあり、継続して機会あるごとに情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	居室担当職員、計画作成担当者のみならず、職員全員の気づきをケア記録で情報共有しアセスメント更新する。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	本人の意向と状況、家族の意向、日々のケア記録、MTG、ワーカー会議での意見、提案を踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。今後ケースカンファレンスの時間を組み入れていく。	入居時のアセスメントで得られている情報を基に初回の介護計画を作成し、3ヶ月を目安に様子を見ながら、事前に得られている情報と齟齬が無いか等を確認しています。その後は、短期6ヶ月、長期1年での見直しを基本とし、本人の意向と状況、家族の意向、日々のケア記録、ミーティング、ワーカー会議でモニタリングとアセスメントを行い、現状に即した介護計画の作成につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践について病状の変化や、経過記録、申し送りノート。MTG記録などで情報共有して支援している。その実践や効果を評価し介護計画に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状や身体状況により、医療との連携や福祉用 具の導入、インフォーマルなサービスの利用も 検討している。先々の経済的な状況の予測から 特養の見学希望にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや「注文を間違えるカフェ」への参加。好みの飲み物を自動販売機で買う。訪問販売のパン屋での買い物。新聞を二名とっている。「まごころサポート」による通院介助や外出支援など利用している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	24時間オンコール対応可能な往診医が連携しており、個々の希望での契約であるが、結果として現在全員が往診医に変更した。訪問看護も24時間オンコール体制である。歯科医も健診、口腔ケア指導含め必要な方は診て頂けている。	入居時に協力医療機関の説明とかかりつけ医を確認し、事業所の協力医療機関に切り替えることのメリットを説明したうえで主治医を決めていただいています。現在は全員が協力医療機関に切り替えており、月2回の訪問診療を受診しています。専門科への受診は家族対応を基本としていますが、有料にて送迎を委託出来るサービスもあります。歯科は必要な方のみ、契約して口腔ケア等の処置を受けています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や 看護を受けられるように支援している	連携契約にて隔週での定期訪問と24時間オンコール体制で支援頂いている。往診医や薬局との連携も出来ている。生活習慣、健康面などさまざまな相談、アドバイスを受けている。ターミナルの対応に関しても連携にて医療と介護で対応してきた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるよう に、病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。又は、そうした場合に備えて病院関係者と の関係づくりを行っている。	これまで入院となったケースは1件のみであった。このケースでは入院時にSWへの情報提供と入院中の経過報告を頂くなど情報交換できた。 退院目指して医師との院内カンファレンス予定していたが、急変にてご逝去となった。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所でできることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取 り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針に関して、玄関に掲示するとともに、契約時に説明し理解されている。実際に重度化や終末期に至った場合は、方針を家族に意向に変わりないか再確認の上、医療とも連携して支援している。	重度化や終末期に向けた方針に関して、玄関に掲示するとともに、契約時に重度化と終末期に対する指針を基に説明して同意をいただいています。実際に重度化に直面した場合には、医師、家族、管理者で話合い、事業所で出来ること、出来ないことなど説明して、今後の方向性を決めています。延命治療の有無については医師と家族で覚え書きを交わしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	急変時と事故のマニュアルを作成し、定期的にマニュアルの確認をし応急手当や初期対応できるようにしている。 訪看と連携もスムーズに行うことが出来るように確認している。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	日中に関しては、防災訓練時に確認し避難経路、避難方法を理解している。夜間については隣接する小規模多機能と無線にて連絡を密にとり、どの災害にも対応できるように情報共有を定期的に行っている。防災訓練炊き出しなど地域にも声かけし参加してもらっている。	現状、開所間もないので、日中中心に訓練を行っています。日中に関しては、防災訓練時に確認し避難経路、避難方法を理解しています。防災訓練はデイサービス、小規模多機能等と合同で行っています。防災訓練炊き出しなど地域にも声かけし参加してもらっています。BCP,感染症マニュアルを作成し、備蓄は3日分保存していますが、まだ不十分と感じています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV	そ	の人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	自宅にいるのと同じように笑顔多くあるように 声かけを多くしている。声かけ時には人格を尊 重し、人生の大先輩からたくさんの事を学ばせ ていただく。職員の約束により呼び方は名字に さん付け、挨拶や笑顔など接遇に配慮してい る。	法人の理念「人は人として存在するだけで尊い。真の福祉は人のいのちの尊さを知り、個人の人格を心から敬愛するところから始まる」を踏まえ、人生の先輩として敬意を込めた対応と声かけで介助を行っています。職場環境の乱れは利用者対応にも通ずると考え、「職員の約束」を定め、業務を行うようにしています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	入浴の順番や、時間など選択肢のあるものは、 ご本人の必ず伺い、自己決定できるように導 く。ご自分の思いや意見が言えるようにコミュ ニケーションを多くしている。話を傾聴し自分 で決められるように促したり、自己実現目標を 確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	タイムスケジュールにこだわりすぎず、ご本人のペースにて日々過ごしていただく。時には声かけにてフロアに出てきていただき体操や季節のおやつ作り等一緒に行う時間も設けている。起床、就寝時間も概ね生活習慣に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	入浴時後に更衣する衣類は、ご自分で用意できるご利用者には準備していただく。その際季節はずれの物など準備している時は声かけをし、一緒に準備を行う。起床時にうがいや洗顔等整容を促している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	ご飯や味噌汁をよそったり、配膳をお願いをしご利用者同士の交流も深める。食器洗いや食器拭きを一緒に行う声かけアプローチを行っている。盛り付けの工夫や献立の季節感をメニュー紹介の際に伝える。	利用者と一緒に食事の準備をするよう心掛けています。ご飯や味噌汁をよそったり、配膳をお願いをしたりして、利用者同士の交流も深めるようにしています。食器洗いや食器拭きを一緒に行う声かけやアプローチを行っています。盛り付けの工夫や献立の季節感をメニュー紹介の際にお伝えしています。毎週水曜日はパン食を取り入れる等の変化も付けながら食事を楽しめるよう支援しています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	汁物の温度の好みや。盛り付ける量、形態、好みなど、個別対応できるように、ネームプレートに細かく記載し、ご利用者が気を使わずに、おいしく召し上がっていただけるようにしている。管理栄養士の献立に沿って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	毎食後にうがいや歯磨きを行うように声かけや 介助をしている。定期的に歯科往診にて口腔内 の状況を把握している。職員にも口腔ケアの指 導、アドバイス、歯ブラシの交換時期のお知ら せなど頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、ト イレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っ ている	介助が必要なご利用者には一人一人のタイミングを職員間にて共有し、できる限りトイレにて排泄できるようにしている。個別対応にて、パットの種類を変えて快適に過ごしていただいたり、睡眠の質を落とさないように心がけている。	利用者全員の排泄状況を把握するため、排泄記録を付けています。トイレ誘導を行う際には、排泄記録を基に声かけを行ったり、様子を見ながら声かけする等して、トイレでの排泄につなげるように支援しています。夜間は睡眠を優先し、不必要な排泄介助は回数を減らして睡眠を確保しています。その方に合った適切な尿とりパッドを使用するなど、家族の費用負担にも配慮しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便コントロールは、往診医、訪問看護、介護と連携、情報の共有をし、下剤や浣腸などの医療的アプローチと、水分量や運動などの生活的アプローチで取り組んでいる。食物繊維の多いサンファイバーの使用も推奨されている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴 を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯 を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援 をしている	入浴に日には朝から何度も伝えていく。気分の 乗らない時、体調がすぐれないときは、曜日の 変更をし対応している。リフト浴やバスボード など個別に対応し、気持ちよく、気分よく入浴 していただいている。	入浴日の朝に、何度も伝えることで意識づけを促すようにしています。入浴前にはバイタルチェックと本人の意向を確認し、安全かつ無理強いしない入浴支援を心がけています。週2回の入浴を基本とし、利用者のADLに応じて、リフト浴やバスボードを使用しながら、清潔の保持に努めています。入浴後には保湿クリームの塗布や水分を摂取していただくようにしています。	今後の継続

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項    目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居眠りや、ご本人の様子をみて就寝ケアを行っている。臥床時には眠りスキャンやセンサーを用いて安心安全に安眠できるようにしている。2時間おきの定期巡回だけでなくまめに様子を見ている。眠れないときは眠くなるまで一緒に過ごすことで安心される。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、 用法や用量について理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された薬、変更になった 薬を職員間にてしっかり共有し「お薬処方一 覧」を個別に作成しいつでもどんな時でも閲覧 できるようにしているため職員が安心して服薬 支援ができるようにしている。誤薬のないよう に服薬前に声に出して確認をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯干し、洗濯もの畳む等生活に欠かせないものなどは共同生活していく中でご利用者同士で役割分担が出来てきた。 居室掃除、リネン交換など一緒に行うようにしている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しながら出かけら れるように支援している	感染症がありドライブなどの外出が難しいが、 施設内のイベントに参加している。外気浴かね て、洗濯物を干したり、ウッドデッキにておや つを召し上がって頂いたりしている。ご家族と 協力し、外出をすることができるようにアプ ローチしている。	コロナ感染症は5類に移行しましたが、季節柄他の感染症の懸念もある為、外出支援は控え、施設内行事等を中心に気分転換につながるように支援しています。敷地内も広く、歩ける人は敷地内を散策したり、洗濯物干しや、ウッドデッキも活用しながら外気に触れていただくようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来るご利用者がいない為、小銭入れを持っていていただくことで安心していただく。移動販売のパン屋さんや自動販売機にて購入するときにはお金をお渡しし一緒に買い物をするようにする。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っているご利用者はご自分のタイミングにて連絡をしている。ご家族が困るほど連絡してしまうときは、ご家族と相談しその都度対応している。定期的に面会されるご家族が多いため、連絡を取りたいと希望される方がいない。希望時はご家族と連絡できるように電話に出てもらうなど対応する。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温 度など)がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	季節の花や果物など折り紙などでご利用者と作成し季節など感じられるようにしている。大きな窓があるため開けて換気し心地よく過ごせるようにしている。共同スペースをご利用者と一緒に掃除かたずけを行うことで気持ちよく過ごされている。清潔を保ち、音頭は各部屋、リビングに温度湿度計で管理。エアコンの風も直接あたらないよう工夫。	共用空間は皆が過ごすことから、整理整頓や動線の 確保を意識し、安全かつ快適に過ごせるよう、利用 者と一緒に清掃や片付けを行っています。季節の花 や、レクリエーションで制作した作品を飾り、季節 感を演出しています。果物など折り紙などでご利用 者と作成し季節など感じられるようにしています。 大きな窓からは陽の光がふんだんに取り入れること ができ、カーテンで採光を調整しながら適度の明る さを確保しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所 の工夫をしている	ご利用者同士での会話が楽しめるように、食席を工夫したり、職員が一緒に入ることで難聴の方も楽しく参加できるようにしている。リビング奥にソファー置き、食卓テーブル以外でも過ごせる。介助が必要な方も居るがウッドデッキやバルコニーで気分転換できる。		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活 かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	ご自宅で使っていたものを基本的に持参されている。特に枕や布団は、馴染みのあるものなので安心されている。趣味の作品や宝物を居室内や飾り棚に置く。家族や趣味の登山、旅行先での思い出写真を飾る。カーテンもお好みの色柄を用意している。	居室にはエアコン、洗面台、トイレ、バルコニーが備え付けとして完備されています。 入居時には、自宅で使用していた家具や寝具、調度品等を持ち込んでいただくように声かけしています。 居室入口の飾り棚には、ご自身の部屋と認識できるよに小物等が飾られています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ自 立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレがあるためご自分でできるように見守りを行っている。居室のドアを開けていることでご自分の部屋がすぐわかる。建物内に手すりは少なく階段、着脱室のみ。特に着脱は手すりを利用して立ち上がる。居室内の物品はご家族の協力のもと自分で管理しやすいように工夫。		

# 目標達成計画

潤生園よりあいどころ螢田 事業所

作成日 令和6年11月25日

[目標達成計画]

ĹΗ	悰Ĕ				
優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
2	1	新規事業所として地域 との交流が乏しい。人 員都合もあり、外出が できていない	地域交流ルーム、ウッドデッキや芝生の庭を 活用し、地域の方々、 子供たちが安心して立 ち寄れる場所になる。	子供食堂開催を目指 し、おやつ作り、木工 教室、書道教室など入 居者と共に行える活動 を年間計画に基づいて 企画実施する。	1年
1	2	「職員の約束」を毎日 唱和しているが、厳守 できていない。	入居者の自己実現目標 を理解し、目標達成に 向けて質の良いケアの 提供をする。	ケアの質向上のため、 時間厳守、言葉遣い、 挨拶、呼称それぞれの ルールについて厳守す る。	1年

- 注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	潤生園よりあいどころ螢田
ユニット名	2F

V	V アウトカム項目					
56		0	1, ほぼ全ての利用者の			
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		2, 利用者の2/3くらいの			
			3. 利用者の1/3くらいの			
			4. ほとんど掴んでいない			
57	利田老も聯長が、休かみ、それも同ざを相工が	0	1, 毎日ある			
	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。		2,数日に1回程度ある			
	(参考項目:18,38)		3. たまにある			
			4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい		1, ほぼ全ての利用者が			
	利用有は、一人のとりのペースで春らしている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:38)	0	3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	0	1, ほぼ全ての利用者が			
			2, 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい		1, ほぼ全ての利用者が			
	る。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:49)	0	3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な	0	1, ほぼ全ての利用者が			
	利用有は、健康自生で医療面、女主面で不安なく過ごせている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:30,31)		3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	0	1, ほぼ全ての利用者が			
	利用有は、その時々の状況で安全に応じた条款 な支援により、安心して暮らせている。		2, 利用者の2/3くらいが			
	(参考項目:28)		3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている。 (参考項目:9,10,19)	0	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域		1, ほぼ毎日のように
	囲いり場でケルークホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている。	0	2, 数日に1回程度ある
	(参考項目:9,10,19)		3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係		1, 大いに増えている
	者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業 所の理解者や応援者が増えている。	0	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
	(参考項目:4)		4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。		1, ほぼ全ての職員が
	(参考項目:11,12)	0	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満	0	1, ほぼ全ての利用者が
	足していると思う。		2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお	0	1, ほぼ全ての家族等が
	報員から見て、利用者の家族等はリーピスにお   おむね満足していると思う。		2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I	理》	- 念に基づく運営			
1		<ul><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</li></ul>	法人の理念「人は人として存在するだけで尊い。真の福祉は人の命の尊さを知り、個人の人格を心から敬愛するところから始まる」を毎日唱和し実践につながるよう意識している。科学的介護に基づく自立支援介護を実践し入居者個々の自己実現目標を共有し目標達成を目指しています。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所時から地域自治会や民生委員、地域包括支援センターなどと情報交換はしている。二ヶ月に1回の運営推進会議が主な交流になっている。その会議も地域の方々も忙しく出席率は低い。8月に「カブトムシ&クワガタムシふれあい展」をおこなった。地域の子供、親子連れで盛況でした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	防災訓練、炊き出しなど地域にお知らせし実施している。運営推進会議では、路地が暗いので、防犯のために、施設の街頭をつけておいてほしいなど要望があり対応した。公園が少ないということで、子供たちや誰もが安心して立ち寄れる場所になっていく。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隣接の小規模多機能型居宅介護「みんなの家ほたるだ」と共同開催している。 それぞれの地域交流ルームにて参加。イベント の企画や災害時、特に水害発生時には避難場所 になるように計画中です。民生委員さんからの 情報や転倒事故や介護保険の状況など情報共有 している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	開所に向け、また開所時に市の担当者と確認等 関わって頂いた。また、これまでに改正等により、基本料金、新しい加算や減算、介護職員等 処遇改善加算の割合変更などあった。市主催の 「集団講習会」「介護サービス事業所連絡会」 へ参加した。「運営指導」で指導も受けた。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で理解を深め、入居者に寄り添い、行動をともにするなど行い、声かけについてもスピーチロックになっていないかなど、職員間で情報共有。玄関の施錠に関しては主に防犯の為、職員が各階1名の対応の夜間18時30分から朝7時00分までは施錠している。緊急やむを得ない状況の発生はない。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	虐待防止委員1名が3ヶ月毎の虐待防止委員会に 出席し情報共有、検討など行い、それを事業所 内で共有している。また、県からの高齢者虐待 防止の自己点検シートの実施を行い、防止に努 めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必 要性を関係者と話し合い、それらを活用できる よう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について 学ぶ機会を事業所内ではまだ作れていない。成 年後見制度の利用に関しては事業所内で2名ご 家族が手続きを進められている。連携している 医師による診断書の作成に協力頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書を十分に説明し、その後契約書の内容説明行い契約している。改定により料金、内容の変更の際には改めて重要事項説明書を更新し説明行い、不安や疑問について解消を図っている。		
10	7	<ul><li>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並 びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている</li></ul>	利用者に自己実現目標を聞き取る事を行っている。聞き取り困難な場合もあるが、その内容を運営に生かせるように情報共有する。また家族等のご要望やご意見については、面会時、プラン更新時、電話連絡時に聞き取りし記録にし共有、検討、実施している。年度内に家族会企画する。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のMTGも含め特に月に二回のワーカー会議において、利用者の情報共有とともに、法人や事業所の運営状況(収支含む)も管理者から職員へ伝達報告し意見を聴取している。シフトの業務内容やレクリェーション、書式の変更、委員会の内容など実施している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりが いなど、各自が向上心を持って働けるよう職場 環境・条件の整備に努めている	月に3回の上司との1on1フィードバックミーティングが位置付けられており、個別の就労希望も確認している。法人内で様々なサービスや勤務形態が見て希望出来る。有給休暇や残業手当など人事部と各管理者で管理ソフト使用し管理確認している。正職員や昇格など年二回機会を設けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は事業所で行うほか、人材育成センターにて年間計画に沿って入社時研修、年次研修などが実施されている。そのほかにABILIClipでeラーニングで学べる。感染症対策研修は看護師から研修し事業所内全職員へ伝達研修行う。ほかに部門内OJT実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取組みをしている	市が主催の多職種対象の研修や医師会主催の勉強会などへ参加交流する。また市内の小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護の事業所で連絡会があり、RUN件や注文を間違えるカフェ、事業所見学会、研修など行い、交流しながらお互いに活動し関わる。		
П	安	心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、本人の安心を確保するための関係づくり に努めている	既往歴や生活歴を聞き取り、話をすることで関係構築はかる。本人の趣味趣向を聞き取り活動 出来るきっかけを作る。困っている事、不安な 事が払拭出来るよう職員間で共有し対応する。 課題分析表、ケア記録等に記す。新しい環境に 慣れ安心出来る場所になるように努める。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況を共有し、家族の思い、家族それ ぞれの健康状態含めて、不安や要望を聞き取り をする。方針やケア内容などサービス担当者会 議を行い説明を丁寧に行い、意向など確認し不 安解消おこなう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	認知症滞欧型共同生活介護の利用が、適切か否か、それまで利用してきたサービスがあれば、そこからも情報収集する。また選択しとしてのサービスの説明も出来る限り行う。必要と思われるサービスの提案行う。		
18		<ul><li>○本人と共に過ごし支え合う関係</li><li>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</li></ul>	入居者本人の行えることを見極め、必要なところは支援し、出来るところは見守り 役割をもって張りのある生活を出来るように努める。職員が行ってしまうと業務になるがケアとして関わり、どうしたら出来るかを考えて支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置か ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	家族に可能な部分で、役割を担って頂く。消耗品の補充や必要な場合の受診、家族との外出、外食。日々の暮らしを発生した事故等含めて状況報告行い状態を知って頂く。趣味を継続するための支援。帰宅願望時の面会や電話対応。支援内容の要望や確認をして頂く		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内や廊下の専用飾り棚に、思い出の品を 飾ったり、アルバムを持参されていれば、それ を見ながら思い出話が出来るようにする。感染 症に配慮して頂き、友人や近隣の方の面会など 楽しむ。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評 価	部評価	項    目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	特定の利用者同士が理由もなくぶつかることもあった。些細なことが納得いかない利用者もあったが、これまでの支援経過でお互いを思いあったり、不安の解消につながる言葉がけをしたりコミュニティが出来上がってきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	これまでに利用終了になったケースは3件。入院の末戻らずにご逝去されたケースやお看取りのケース2件あった。どちらも家族が居室で見守りながら最期を看取ることが出来た。写真や動画の提供をし生前の様子を家族と共有する時間をつくることができた。		
Ш	そ(	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している。	ご自宅の様子や本人、家族の意向をお話や行動などからはあくしている。起床時間、就寝時間についても本人のペースで出来ている。生活の中の様々なタイミングも大きく生活のリズムが崩れないよう見守りながら過ごされている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	入居前の自宅への訪問や、入居前に利用していたサービス、病院などから得た情報を記録する。情報が乏しいケースもあり、継続して機会あるごとに情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	居室担当職員、計画作成担当者のみならず、職 員全員の気づきをケア記録で情報共有しアセス メント更新する。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	本人の意向と状況、家族の意向、日々のケア記録、MTG、ワーカー会議での意見、提案を踏まえ、計画作成担当者が介護計画を作成している。今後ケースカンファレンスの時間を組み入れていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践について病状の変化や、経過記録、申し送りノート。MTG記録などで情報共有して支援している。その実践や効果を評価し介護計画に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状や身体状況により、医療との連携や福祉用 具の導入、インフォーマルなサービスの利用も 検討している。先々の経済的な状況の予測から 特養の見学希望にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや「注文を間違えるカフェ」への参加。好みの飲み物を自動販売機で買う。訪問販売のパン屋での買い物。新聞を二名とっている。「まごころサポート」による通院介助や外出支援など利用している。		
30		○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	2 4時間オンコール対応可能な往診医が連携しており、個々の希望での契約であるが、結果として現在全員が往診医に変更した。訪問看護も2 4時間オンコール体制である。歯科医も健診、口腔ケア指導含め必要な方は診て頂けている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や 看護を受けられるように支援している	連携契約にて隔週での定期訪問と24時間オンコール体制で支援頂いている。往診医や薬局との連携も出来ている。生活習慣、健康面などさまざまな相談、アドバイスを受けている。ターミナルの対応に関しても連携にて医療と介護で対応してきた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまで入院となったケースは1件のみであった。このケースでは入院時にSWへの情報提供と入院中の経過報告を頂くなど情報交換できた。 退院目指して医師との院内カンファレンス予定していたが、急変にてご逝去となった。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所でできることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取 り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針に関して、玄関に掲示するとともに、契約時に説明し理解されている。実際に重度化や終末期に至った場合は、方針を家族に意向に変わりないか再確認の上、医療とも連携して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	急変時と事故のマニュアルを作成し、定期的にマニュアルの確認をし応急手当や初期対応できるようにしている。 訪看と連携もスムーズに行うことが出来るように確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	日中に関しては、防災訓練時に確認し避難経路、避難方法を理解している。夜間については隣接する小規模多機能と無線にて連絡を密にとり、どの災害にも対応できるように情報共有を定期的に行っている。防災訓練炊き出しなど地域にも声かけし参加してもらっている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV	そ(	の人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	自宅にいるのと同じように笑顔多くあるように 声かけを多くしている。声かけ時には人格を尊 重し、人生の大先輩からたくさんの事を学ばせ ていただく。職員の約束により呼び方は名字に さん付け、挨拶や笑顔など接遇に配慮してい る。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	入浴の順番や、時間など選択肢のあるものは、 ご本人の必ず伺い、自己決定できるように導 く。ご自分の思いや意見が言えるようにコミュ ニケーションを多くしている。話を傾聴し自分 で決められるように促したり、自己実現目標を 確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	タイムスケジュールにこだわりすぎず、ご本人のペースにて日々過ごしていただく。時には声かけにてフロアに出てきていただき体操や季節のおやつ作り等一緒に行う時間も設けている。 起床、就寝時間も概ね生活習慣に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	入浴時後に更衣する衣類は、ご自分で用意できるご利用者には準備していただく。その際季節はずれの物など準備している時は声かけをし、一緒に準備を行う。起床時にうがいや洗顔等整容を促している。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	ご飯や味噌汁をよそったり、配膳をお願いをしご利用者同士の交流も深める。食器洗いや食器 拭きを一緒に行う声かけアプローチを行っている。盛り付けの工夫や献立の季節感をメニュー紹介の際に伝える。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	汁物の温度の好みや。盛り付ける量、形態、好みなど、個別対応できるように、ネームプレートに細かく記載し、ご利用者が気を使わずに、おいしく召し上がっていただけるようにしている。管理栄養士の献立に沿って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	毎食後にうがいや歯磨きを行うように声かけや 介助をしている。定期的に歯科往診にて口腔内 の状況を把握している。職員にも口腔ケアの指 導、アドバイス、歯ブラシの交換時期のお知ら せなど頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、ト イレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っ ている	介助が必要なご利用者には一人一人のタイミングを職員間にて共有し、できる限りトイレにて排泄できるようにしている。個別対応にて、パットの種類を変えて快適に過ごしていただいたり、睡眠の質を落とさないように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便コントロールは、往診医、訪問看護、介護 と連携、情報の共有をし、下剤や浣腸などの医 療的アプローチと、水分量や運動などの生活的 アプローチで取り組んでいる。食物繊維の多い サンファイバーの使用も推奨されている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴 を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯 を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援 をしている	入浴に日には朝から何度も伝えていく。気分の乗らない時、体調がすぐれないときは、曜日の変更をし対応している。リフト浴やバスボードなど個別に対応し、気持ちよく、気分よく入浴していただいている。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居眠りや、ご本人の様子をみて就寝ケアを行っている。臥床時には眠りスキャンやセンサーを用いて安心安全に安眠できるようにしている。2時間おきの定期巡回だけでなくまめに様子を見ている。眠れないときは眠くなるまで一緒に過ごすことで安心される。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、 用法や用量について理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された薬、変更になった 薬を職員間にてしっかり共有し「お薬処方一 覧」を個別に作成しいつでもどんな時でも閲覧 できるようにしているため職員が安心して服薬 支援ができるようにしている。誤薬のないよう に服薬前に声に出して確認をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯干し、洗濯もの畳む等生活に欠かせないものなどは共同生活していく中でご利用者同士で役割分担が出来てきた。 居室掃除、リネン交換など一緒に行うようにしている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しながら出かけら れるように支援している	感染症がありドライブなどの外出が難しいが、 施設内のイベントに参加している。外気浴かね て、洗濯物を干したり、ウッドデッキにておや つを召し上がって頂いたりしている。ご家族と 協力し、外出をすることができるようにアプ ローチしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来るご利用者がいない為、小銭入れを持っていていただくことで安心していただく。移動販売のパン屋さんや自動販売機にて購入するときにはお金をお渡しし一緒に買い物をするようにする。		

自	外		自己評価	外部評価	
己評価	部評価	項    目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っているご利用者はご自分のタイミングにて連絡をしている。ご家族が困るほど連絡してしまうときは、ご家族と相談しその都度対応している。定期的に面会されるご家族が多いため、連絡を取りたいと希望される方がいない。希望時はご家族と連絡できるように電話に出てもらうなど対応する。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温 度など)がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	季節の花や果物など折り紙などでご利用者と作成し季節など感じられるようにしている。大きな窓があるため開けて換気し心地よく過ごせるようにしている。共同スペースをご利用者と一緒に掃除かたずけを行うことで気持ちよく過ごされている。清潔を保ち、音頭は各部屋、リビングに温度湿度計で管理。エアコンの風も直接あたら内容工夫。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所 の工夫をしている	ご利用者同士での会話が楽しめるように、食席を工夫したり、職員が一緒に入ることで難聴の方も楽しく参加できるようにしている。リビング奥にソファー置き、食卓テーブル以外でも過ごせる。介助が必要な方も居るがウッドデッキやバルコニーで気分転換できる。		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活 かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫 をしている	ご自宅で使っていたものを基本的に持参されている。特に枕や布団は、馴染みのあるものなので安心されている。趣味の作品や宝物を居室内や飾り棚に置く。家族や趣味の登山、旅行先での思い出写真を飾る。カーテンもお好みの色柄を用意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ自 立した生活が送れるように工夫している	居室内にトイレがあるためご自分でできるように見守りを行っている。居室のドアを開けていることでご自分の部屋がすぐわかる。建物内に手すりは少なく階段、着脱室のみ。特に着脱は手すりを利用して立ち上がる。居室内の物品はご家族の協力のもと自分で管理しやすいように工夫。		

# 目標達成計画

潤生園よりあいどころ螢田 事業所

作成日 令和6年11月25日

[目標達成計画]

<u> </u>	小八				
優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
2	1	新規事業所として地域 との交流が乏しい。人 員都合もあり、外出が できていない	地域交流ルーム、ウッドデッキや芝生の庭を 活用し、地域の方々、 子供たちが安心して立 ち寄れる場所になる。	子供食堂開催を目指 し、おやつ作り、木工 教室、書道教室など入 居者と共に行える活動 を年間計画に基づいて 企画実施する。	1年
1	2	「職員の約束」を毎日 唱和しているが、厳守 できていない。	入居者の自己実現目標 を理解し、目標達成に 向けて質の良いケアの 提供をする。	ケアの質向上のため、 時間厳守、言葉遣い、 挨拶、呼称それぞれの ルールについて厳守す る。	1年

- 注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。